

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-238783
(P2000-238783A)

(43) 公開日 平成12年9月5日(2000.9.5)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード(参考)
B 6 5 D 23/00		B 6 5 D 23/00	P 3 E 0 6 2
77/02		77/02	B 3 E 0 6 7
			B

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全7頁)

(21) 出願番号 特願平11-40699

(22) 出願日 平成11年2月18日(1999.2.18)

(71) 出願人 597151758
株式会社マインド
福岡市早良区百道浜4丁目31番1-1101号

(71) 出願人 596174754
白水 稔
福岡県春日市大谷9丁目40番地 シティパ
ル春日セントレ1315号

(72) 発明者 白水 稔
福岡県春日市大谷9丁目40番地 シティパ
ル春日セントレ1315号

(74) 代理人 100099508
弁理士 加藤 久

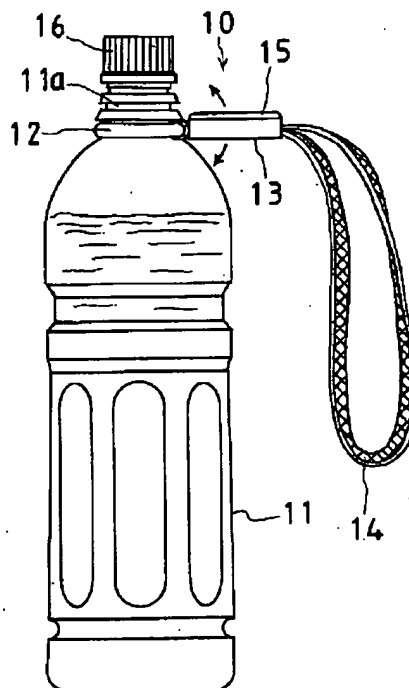
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 飲料容器保持具

(57) 【要約】

【課題】 ペットボトルなどの飲料容器の携帯性および取扱性を向上させることができ、着脱性も良好な飲料容器保持具を提供する。

【解決手段】 飲料容器保持具10は、飲料容器11の注出部分11aに着脱可能なゴム製のリング部材12と、リング部材12に連結されたホルダ部材13と、ホルダ部材13に係止されたループ形状の紐状体14とを備え、ホルダ部材13に識別体15が付設されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 飲料容器の注出部分に着脱可能な伸縮性を有するリング部材と、前記リング部材に連結され手指で挟持可能なホルダ部材と、前記ホルダ部材に係止された紐状体とを備えたことを特徴とする飲料容器保持具。

【請求項2】 前記紐状体がループ形状である請求項1記載の飲料容器保持具。

【請求項3】 ループ形状をした前記紐状体に、そのループ径を変更するためのストッパを設けた請求項2記載の飲料容器保持具。

【請求項4】 前記リング部材と前記ホルダ部材との間にスペーサ部材を介在させて連結した請求項1～3のいずれかに記載の飲料容器保持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ペットボトルなどの飲料容器を持ち運ぶ際に使用する飲料容器保持具に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、ジュース、茶、スポーツドリンクあるいはミネラルウォーターなどの飲料はペットボトルと呼ばれる飲料容器に入れた状態で販売されている。一般にこれらのペットボトルの注出口は開閉可能なネジ式のキャップで密封されているので、消費者は栓抜きなどの器具を使うことなくキャップを開封して、中身を飲むことができる。

【0003】また、ペットボトル内の飲料を飲み残した場合は、再びキャップで注出口を密封することができるので、開封前と同様、ペットボトルを持ち運んだり、冷蔵庫内に保管することが可能である。

【0004】市販されているペットボトル入り飲料のサイズは大小様々であるが、500mlサイズのペットボトル入り飲料は重量500g程度で、持ち運ぶ際の負担も比較的小さいので、屋外などでペットボトルを持ち歩きながら、喉の渇いたときに飲用する人が増えている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】ペットボトル入り飲料を持ち歩く場合、500mlサイズ程度の比較的小さなものであっても、そのままの状態では持ちにくく、手に持った場合はその手が完全に塞がってしまい、両手で荷物を持つなどの他の動作ができなくなるので、非常に不便であり、取扱性が悪い。

【0006】また、ペットボトル入り飲料は、ポケットなどに収納するには嵩張り過ぎる大きさなので、バッグなどに入れて持ち運ぶこともあるが、飲用するたびにバックなどから出し入れしなければならないので極めて面倒である。

【0007】さらに、グループなどで行動している複数の人間が同じ種類のペットボトル飲料をそれぞれ飲用しているような場合、飲み残した飲料が入った複数のペッ

トボトルの所有者が判らなくなることが多い。500mlサイズのペットボトル飲料の場合などは、キャップを取り外した注出口に直接口を付けて飲用することが多いので、各ペットボトルの所有者が判らなくなると衛生上好ましくない状況が発生する。

【0008】そこで、本発明が解決しようとする課題は、ペットボトルなどの飲料容器の携帯性および取扱性を向上させることができ、着脱性も良好な飲料容器保持具を提供することにある。

10 【0009】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため、本発明の飲料容器保持具は、飲料容器の注出部分に着脱可能な伸縮性を有するリング部材と、リング部材に連結されたホルダ部材と、ホルダ部材に係止された紐状体とを備えたことを特徴とする。飲料容器の注出部分にリング部材を装着すれば、ホルダ部材を介してリング部材に紐状体が係止された状態となり、この紐状体を手あるいは衣服やバッグのベルトなどに吊り下げて飲料容器を手軽に持ち歩くことが可能となるため、飲料容器の携帯性が向上する。また、リング部材と紐状体との間にあるホルダ部材を手指などで挟持して飲料容器を持ち上げることができるので、飲料容器の取扱性も向上する。

【0010】伸縮性を有するリング部材は径方向に拡張可能であるため、飲料容器の注出部分への着脱性が良好で、確実な装着状態が得られ、注出部分のサイズが異なる飲料容器に対する適応性も優れている。また、ホルダ部材を手指などで摘んで引っ張ればリング部材を径方向に拡げることができるので、飲料容器の注出部分に対するリング部材の取り付け、取り外しも容易である。リング部材を形成する材料としては、例えば、ニトリルゴムやシリコンゴムなどのゴム類を用いることができる。

【0011】紐状体は、皮膚などに接触することを考慮して、柔らかな天然繊維や合成繊維などを編んで形成したものをを用いることが望ましいが、廃棄ペットボトルの再生樹脂を素材とする繊維で形成されたものを使用することもできる。

【0012】なお、ホルダ部材に、目視あるいは接触によって確認可能な識別体を付設すれば同一種類の飲料容器同士を識別することが可能となる。識別体としては、文字や図形などを表したプレートや立体形状物などを用いることができるが、人形や動物などのキャラクター類あるいは立体形状物を用いれば、文字を理解できない子供や視覚障害者などでも、例えば、自分用の飲料であることを容易に識別することが可能となる。

【0013】ここで、紐状体をループ形状とすることにより、手首などの身体の一部や衣服やバッグなどのベルトに巻き付けたり、フックに引っ掛けて、飲料容器を吊り下げることが可能となるので、吊り下げ手段に対する着脱性、携帯性がさらに向上する。

50 【0014】このループ形状をした紐状体に、そのルー

ブ径を変更するためのストッパを設けることにより、飲料容器の吊り下げ手段や吊り下げ状態などに最適なループ径となるように調節することが可能となるので、携帯性および取扱性などがさらに向上する。

【0015】また、リング部材とホルダ部材との間にスペーサ部材を介在させて連結することにより、ホルダ部材とリング部材との間隔が広がり、ホルダ部材は飲料容器に接触することなく自由な動きを確保することが可能となるため、紐状体を用いて飲料容器を吊り下げたときのホルダ部材の直立性が向上する。

【0016】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図1は第1実施形態の飲料容器保持具を示す斜視図、図2は前記飲料容器保持具を飲料容器に着脱する手順を示す説明図、図3は前記飲料容器保持具を飲料容器に装着した状態を示す斜視図、図4は前記飲料容器保持具を用いて飲料容器を吊り下げた状態を示す斜視図である。

【0017】本実施形態の飲料容器保持具10においては、図1に示すように、ゴム製のリング部材12に、ホルダ部材13および紐状体14が連結され、ホルダ部材14に識別体15が付設されている。リング部材12は伸縮性を有し、径方向に拡張可能であるため、図2に示すように、拡張状態にすれば飲料容器11の注出部分11aに着脱可能である。

【0018】図3に示すように、リング部材12を飲料容器11の注出部分11aの基端付近に装着すれば、ホルダ部材13を介してリング部材12に紐状体14が係止された状態となる。この紐状体14を手あるいは衣服やバッグのベルトなどに吊り下げれば飲料容器11を手軽に持ち歩くことができるので、飲料容器11の携帯性が向上する。また、ホルダ部材13を手指などで挟持すれば、飲料容器11を簡単に持ち上げることができるので、飲料容器11の取扱性も向上する。

【0019】リング部材12は注出部分11aの基端付近に装着され、紐状体14はホルダ部材13を介してリング部材12から離れた位置に係止されているので、飲料容器11のキャップ16を着脱するとき、あるいは注出口に口をつけて飲用するときに、ホルダ部材13や紐状体14などが邪魔になることもない。

【0020】また、ホルダ部材13に付設された識別体15を見れば、同一種類の飲料容器同士を識別することが可能であるので、飲料容器保持具10ごとに識別体15の形状、色彩あるいは表示物などを変えておけば、同一種類の飲料容器11が複数ある場合でも容易に識別することができる。飲料容器保持具10の識別体15には、キャラクターを表したプレートを用いているので、文字を理解できない子供でも、自分用の飲料であることを容易に識別することができる。

【0021】紐状体14は、皮膚に接触することを考慮

して、柔らかな合成繊維を編んで形成したものをを用いているので、手やベルトなどを傷つけることがない。なお、紐状体14は廃棄ペットボトル再生樹脂を素材とする繊維や天然繊維などで形成されたものを使用することも可能である。また、衛生上の観点から、リング部材12、ホルダ部材13、紐状体14などに抗菌加工を施すこともできる。

【0022】リング部材12は伸縮性を有するゴム材で形成しているので、飲料容器11の注出部分11aへの着脱は容易で、確実な装着状態が得られ、注出部分11aのサイズが異なる飲料容器に対する適応性も良好である。また、ホルダ部材13を手指で摘んで引っ張ることにより、リング部材12を径方向へ拡張することができるので、注出部分11aへの取り付け、取り外しは容易である。リング部材12を形成するゴム材としては、例えば、ニトリルゴムやシリコンゴムなどを用いることができる。

【0023】紐状体14はループ形状であるため、手首などの身体の一部や衣服やバッグなどのベルトに巻き付けたり、フックに引っ掛けて、飲料容器11を吊り下げることができるので、手首などへの着脱性、携帯性も優れている。

【0024】次に、図5、6を参照して、本発明の第2実施形態の飲料容器保持具20について説明する。

【0025】飲料容器保持具20は、飲料容器11の注出部分11aに着脱可能なゴム製のリング部材21と、リング部材21に連結されたホルダ部材22と、ホルダ部材22に係止されたループ形状の紐状体23とを備え、ホルダ部材22に識別体24が付設されている。また、紐状体23には、ループ径を変更するためのストッパ25が取り付けられている。

【0026】飲料容器11の注出部分11aにリング部材21を装着すれば、ホルダ部材22を介してリング部材21に紐状体23が係止された状態となり、この紐状体23を手あるいは衣服やバッグのベルトなどに吊り下げれば飲料容器11を手軽に持ち歩くことができるため、飲料容器11の携帯性が向上する。ホルダ部材22を手指などで挟持して飲料容器11を持ち上げることもできるので、取扱性も良好である。また、ホルダ部材22を手指などで摘んで引っ張ればリング部材21を径方向に拡張することができるので、注出部分11aに対するリング部材21の取り付け、取り外しも容易である。さらに、ホルダ部材22に付設された識別体24を見ることで、同一種類の飲料容器同士を識別することができる。

【0027】ストッパ25は、その本体部25bに挿通された紐状体23を互いに係止する機能を有し、プッシュボタン25aを手指などで本体部25bに押し込めば紐状体23に沿って移動可能となり、プッシュボタン25aから手指などを離せばプッシュボタン25aは元の

状態に戻り、その位置で紐状体23に係止される。

【0028】このように、ストッパ25の係止位置を変えることによって、紐状体23に形成される2つのループの各ループ径を変更することができるので、吊り下げ手段や吊り下げ状態などに最適なループ径となるように調節することができる。

【0029】次に、図7を参照して、本発明の第3実施形態の飲料容器保持具30について説明する。

【0030】飲料容器保持具30は、飲料容器11の注出部分11aに着脱可能なゴム製のリング部材31と、
10 リング部材31にスペーサ部材32を介して連結されたホルダ部材33と、ホルダ部材33に係止されたループ形状の紐状体34とを備えている。

【0031】飲料容器11の注出部分11aにリング部材31を装着すれば、紐状体34を手あるいは衣服やバッグのベルトなどに吊り下げて飲料容器11を手軽に持ち歩くことができるため、飲料容器11の携帯性が向上する。ホルダ部材33を手指などで挟持すれば飲料容器11を簡単に持ち上げることができるので、飲料容器11の取扱性も良好となる。また、ホルダ部材33を手指
20 などで摘んで引っ張ればリング部材31を径方向に広げることができるので、注出部分11aに対するリング部材31の取り付け、取り外しも容易である。

【0032】飲料容器保持具30では、ホルダ部材33自体がキャラクター人形に形成されているので、ホルダ部材33を見たり、手で触ることによって、同一種類の飲料容器同士を識別することができる。また、文字を理解できない子供あるいは視覚障害者でも、自分用の飲料であることを容易に識別することができる。

【0033】また、リング部材31とホルダ部材33との間にスペーサ部材32を介在させることにより、ホルダ部材33とリング部材31との間隔を広げているので、ホルダ部材33は飲料容器11の注出部分11aなどに接触することなく自由な動きを確保することができる。したがって、紐状体34を用いて飲料容器11を吊り下げるときのホルダ部材33の動きが円滑になる。

【0034】飲料容器保持具30では、スペーサ部材32としてビーズを用いているので、飲料容器11やホルダ部材33のサイズや形状などに応じてビーズの個数や外径を変えることによってスペーサ部材32の長さを調節することができる。

【0035】

【発明の効果】本発明により、以下に示す効果を奏する。

【0036】(1) 飲料容器の注出部分に着脱可能な伸縮性を有するリング部材と、リング部材に連結されたホルダ部材と、ホルダ部材に係止された紐状体とを備えたことにより、飲料容器の注出部分にリング部材を装着し、紐状体を手あるいは衣服やバッグのベルトなどに吊り下げれば飲料容器を手軽に持ち歩くことが可能となる

ため飲料容器の携帯性が向上し、ホルダ部材を手指などで挟持して飲料容器を持ち上げることが可能となるので飲料容器の取扱性も向上する。また、伸縮性を有するリング部材は径方向に拡張可能であるため、飲料容器の注出部分への着脱性が良好で確実な装着状態が得られ、注出部分のサイズが異なる飲料容器に対する適応性も優れている。さらに、ホルダ部材を手指などで摘んで引っ張ればリング部材を径方向に広げることができるので、飲料容器の注出部分に対するリング部材の取り付け、取り外しも容易となる。

【0037】(2) 紐状体をループ形状とすることにより、手首など身体の一部や衣服やバッグのベルトなどに巻き付けたり、フックに引っ掛けて、飲料容器を吊り下げ可能となるので、吊り下げ手段に対する着脱性、携帯性がさらに向上する。

【0038】(3) ループ形状をした紐状体に、そのループ径を変更するためのストッパを設けることにより、飲料容器の吊り下げ手段や吊り下げ状態などに最適なループ径となるように調節することが可能となるので、携帯性および取扱性などがさらに向上する。

【0039】(4) リング部材とホルダ部材との間にスペーサ部材を介在させて連結することにより、ホルダ部材とリング部材との間隔が広がり、ホルダ部材は飲料容器に接触することなく自由な動きを確保することが可能となるため、紐状体を用いて飲料容器を吊り下げるときのホルダ部材の動きが円滑になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施形態の飲料容器保持具を示す斜視図である。

30 【図2】図1に示す飲料容器保持具を飲料容器に着脱する手順を示す説明図である。

【図3】図1に示す飲料容器保持具を飲料容器に装着した状態を示す斜視図である。

【図4】図1に示す飲料容器保持具を用いて飲料容器を吊り下げた状態を示す斜視図である。

【図5】第2実施形態の飲料容器保持具を示す斜視図である。

【図6】図5に示す飲料容器保持具を飲料容器に装着した状態を示す斜視図である。

40 【図7】第3実施形態の飲料容器保持具を飲料容器に装着した状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

10, 20, 30 飲料容器保持具

11 飲料容器

11a 注出部分

12, 21, 31 リング部材

13, 22, 33 ホルダ部材

14, 23, 34 紐状体

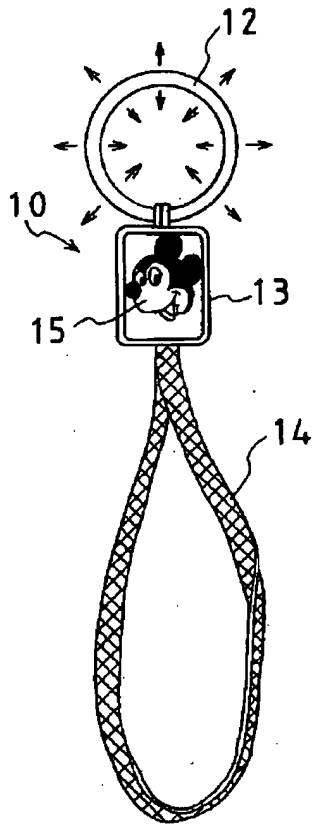
15, 24 識別体

50 16 キャップ

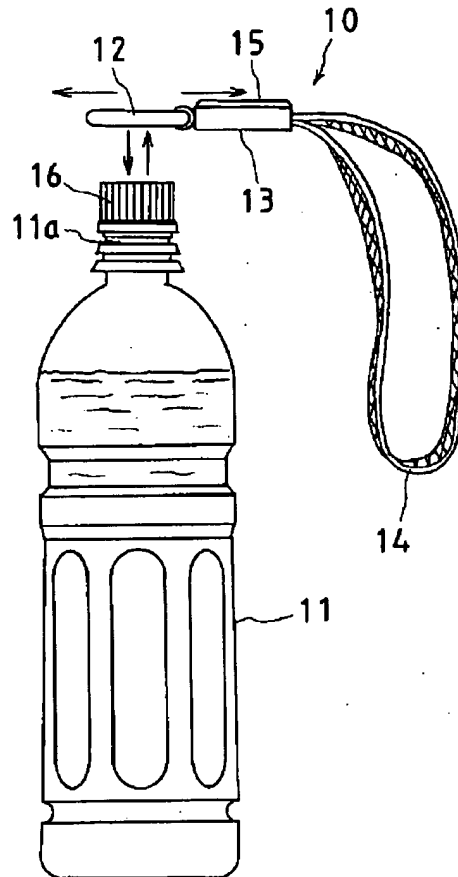
25 ストップパ
25a プッシュボタン

25b 本体部
32 スペーサ部材

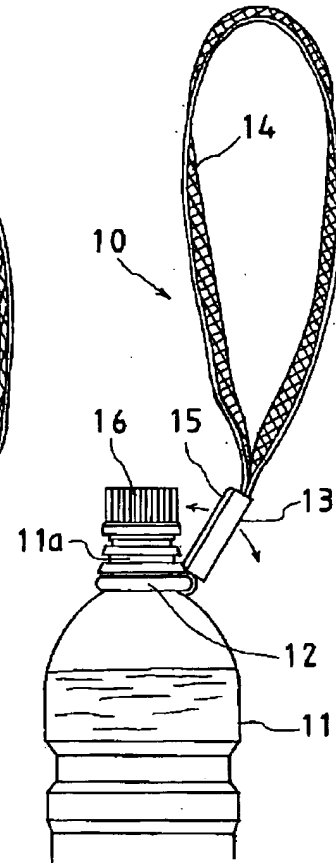
【図1】



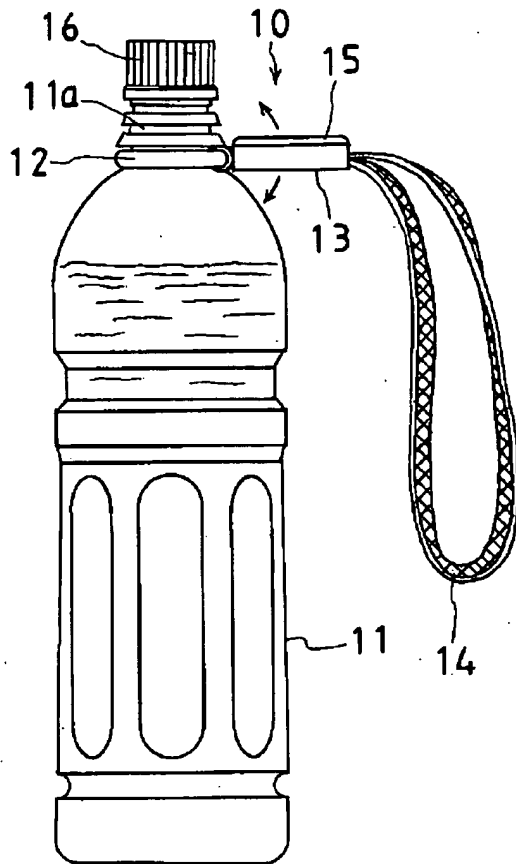
【図2】



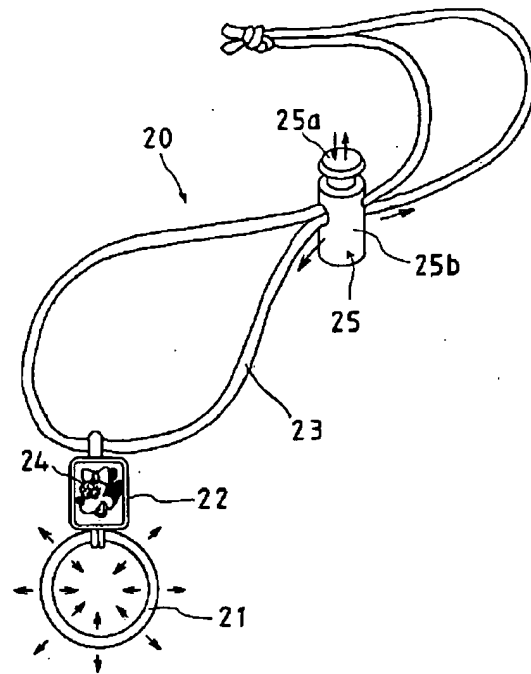
【図4】



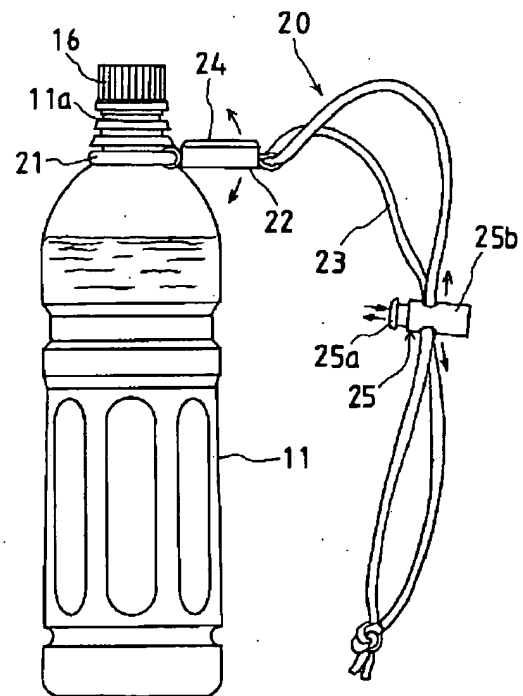
【図3】



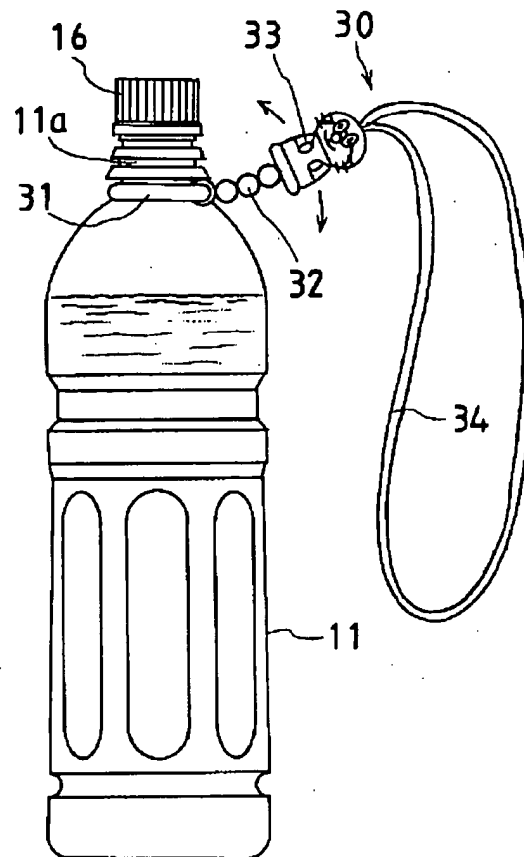
【図5】



【図6】



【図7】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E062 AA09 AB02 AC02 BA20 BB06
BB10 GB06 GB08 GB09 GC03
GC08 KA04 KB17
3E067 AA03 AB26 BA03A BB14A
BC07A EE03 EE16

DERWENT-ACC-NO: 2000-591569

DERWENT-WEEK: 200056

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Beverage container holder
for use in carrying PET bottle
has loop shaped string which
is clamped to holder piece
which is connected to
detachable rubber ring used in
connecting holder and
container

PATENT-ASSIGNEE: MIND KK[MINDN] , SHIRAMIZU
M[SHIRI]

PRIORITY-DATA: 1999JP-0040699 (February 18, 1999)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE
LANGUAGE		MAIN-IPC
JP 2000238783 A		September 5, 2000
N/A	007	B65D 023/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR
APPL-NO	APPL-DATE
JP2000238783A	N/A
1999JP-0040699	February 18, 1999

INT-CL (IPC): B65D023/00, B65D077/02

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2000238783A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A loop shaped string (14) is clamped to a holder piece (13) which is connected to a detachable rubber ring (12). The ring is installed to a pouring portion (11a) of the beverage container (11) to connect the entire holder (10) to the container.

USE - For use in carrying PET bottle.

ADVANTAGE - Improves portability in handling of the container. Enables easy detachment of the holder from the container.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows an explanatory view of detached beverage container beside the container.

Holder 10

Beverage container 11

Pouring portion 11a

Ring 12

Holder piece 13

String 14

CHOSEN-DRAWING: Dwg.2/7

TITLE-TERMS: BEVERAGE CONTAINER HOLD CARRY PET
BOTTLE LOOP SHAPE STRING CLAMP
HOLD PIECE CONNECT DETACH RUBBER RING
CONNECT HOLD CONTAINER

DERWENT-CLASS: Q32 Q34

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2000-438091